

研究発表会通信

第3号

2013年
7月14日
発行
兵庫教育大学
言語表現学会
研究発表会担当

平成25年度 兵庫教育大学言語表現学会 第1回研究発表会・第33回総会

7月6日(土)開催!

四会場、総計十六本の発表

第一会場

芦田苑子さん

「高等学校の授業外英語学習における学習者の自己調整」という発表であった。本学学部1年生を対象に行なった授業外学習の様子や自己調整学習の経験についての調査における結果等を示していた。

中西由香利さん

「中学校におけるライティング指導の実践—マッピングを通して—」という発表であった。中学生がライティングにおいてどこに困難を感じるかを調査し、マッピングを用いたのライティング指導について発表していた。

廣畑陽子さん

「英語プレゼンテーションを通して高校生の学習者主体性を促す活動の分



第33回総会風景 松阪会長の挨拶

析」という発表であった。グループプレゼンテーションを

学会というものは…?

「自分の発表がないときの懇親会は単なる付き合いだ、自分が発表したときの出席は義務だ。発表だけしてさっさと帰るなど、言語道断だ」とシビアな師匠の教えだった。全国大学学会に同行する度に、一つ一つのことを教えられた。「どんな厳しい質問であっても、自分が不快な思いをし

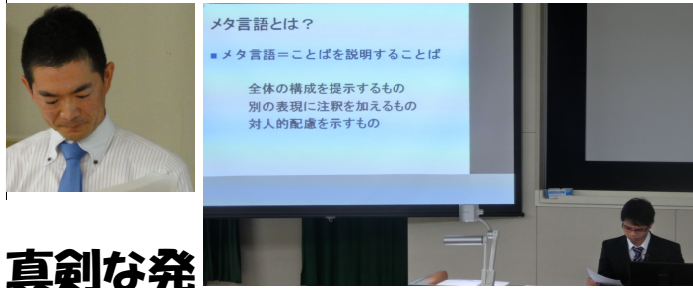
それは、研究という場での力強い支えともなっている。「言い訳をするな。切り捨てられた自分の発表は、惨めさの中で震えている。総てを自分の責任として受け止めること。不勉強などという言葉は、決して口にすべきではない」と学会発表には覚悟がいること、勝負の場であること、そんな「断固たる決意」というものを教えられた。「自分のことだけを考える

な。自分の言葉の重さと責任を考えて、慎重に発言するべきだ」と大変なことだったが、「人のために」と考えられるようになった自分がある。昨年八月、そのシビアな師匠を失ったが、その言葉や所作は未だに色褪せることなく自らの中にある。誰もが回避したいと考える「嫌われる立場」をとり、身をもって教えてくれた師匠に改めて感謝している。(雪)

通して、学習者主体性が変容する過程について発表していた。藤稿英子さん

「児童の『ことばの気づき』を促す小学校外国語活動」という発表であった。プロジェクト型外国語活動において、意味のあることばに触れさせること、そして母語を用いてことばへの気付きを促すことなどについて発表していた。渡辺信一さん

「国語科を核とした総合的な学習指導の実践」という発表



真剣な発表風景～先輩も登壇!

であった本学大学院の修了生、つまり先輩の登壇。大学院時代は国語科教育のゼミ所属であったという。当時の研究を継続し、現場での実践内容を細やかに発表されていた。第二会場

第二会場

A theoretical study of the contribution of form-focused instruction to second language acquisition」という発表であった。第二言語習得に貢献する文法教授法の理論研究について発表していた。

という発表であった。対象者が少数であったため、一般化は可能かというような質問があった。幡振聡さん

「言語コミュニケーションにおけるメタ言語の修復機能と支援機能」という発表であった。研究内容を分かりやすい例を交えながら、パワーポイントで細やかに説明していた。岡本真砂夫さん

「小学校外国語活動における対話の活性化について—授与動詞を用いた活動事例に見られる三項関係—」という発表であった。実際に行なった授業の様子を動画で見ながら、その様子や児童の発言を考察していた。第三会場

第三会場

「建礼門院右京大夫集」の「題詠歌群」に関する分析と考察であった。本学教員の田中雅和学会員から、示唆に富んだ質問と意見がなされ、今後の研究の指針を改めて確認することとなった。飯田鈴美さん

『蜻蛉日記』を対象作品に取り、その中の「聴覚表現」に焦点をあてた発表であった。本学教員の田中雅和学会員か

ら、聴覚表現に視点を当てたことについての意義や価値が問われ、内容の深まりが感じられた。辻道真理子さん

文豪夏目漱石と聞いただけで大きさを感ずる研究対象だが、その中の『漾虚集』を題材とした発表であった。内容、今後の研究展開についても補足的に説明が加えられた。第四会場

第四会場

「中学校国語科における古典指導のあり方」という発表であった。新しい学習指導要領の大眼目でもある「伝統的な言語文化」を基盤にした幅広い視野での研究発表となった。山田小百合さん

「蘇軾『和陶詩』」に見える表現の特徴」という発表であった。本学教員の吉川芳則学会員からは独自の視点を磨くことの必要性が指摘された。森本敦子さん

「『能因集』の地名を含む和歌について」という発表であった。歌枕の成立年月日や取り上げる和歌の種類など、活発な意見交換がなされた。

当日の会場担当者

【受付】

福嶋光輝 吉倉健人

【会場・司会】

江森享子 太田八千代

山本あい 塚本晃弘

矢野宏思

【機器】

西 慎一 玉上貴文

【記録】

岡久美子 岸岡聡子

御協力深謝！お疲れ様！

